**校　長　　稲　葉　　剛**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決できる力を育む教育を実践する学校をめざす。１　急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。２　自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人間の育成をめざす。３　生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にする意識の醸成に努める。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| 今後の３年間を、普通科総合選択制の集大成と総合学科へのスタートと捉え、以下の５点を学校の中期的目標とする。１　思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。（１）授業力向上委員会が中心となって、「学校全体でめざす授業」を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。（２）学校経営推進費を活用してＨＲ教室に設置した電子黒板機能付プロジェクタや総合学科再編で整備したアクティブラーニングルームを有効に活用して、学校全体でＩＣＴ機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。（３）授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」（平成30年度67.2％）を毎年３％引き上げて、2021年度には75％以上にする。２　夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。（１）キャリアサポートルームを有効に活用して、「10年後の自分」を考えさせる。（２）アクティブラーニングルームを有効に活用して「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、ＬＨＲ等で系統的なキャリア教育を実践し、本物や最先端に触れさせる。（３）進学講習を組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。　※進路希望実現率（平成30年度88.5％）を毎年１％ずつ引き上げて、2021年度には90％以上にする。　※難関大学（関関同立・産近甲龍）の合格者（平成30年度５名）を2021年度には20名以上をめざす。３　基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。（１）基本的な生活習慣やマナー指導について、生徒指導部、学年、進路指導部が一体となって取り組む。（２）自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、ＨＲや委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。（３）部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。（４）地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。※年間遅刻者数（平成30年度1631）を毎年５％ずつ減少させ、2021年度には1500以下にする。※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」（平成30年度86.4％）を2021年度には90％以上にする。※部活動加入率（平成30年度　55.2％）を毎年３％ずつ引き上げて、2021年度には65％以上にする。４　多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育や特別支援教育のさらなる充実を図る。（１）ＳＮＳなどの新たな状況にも対応した高校３年間を通した人権教育を推進する。（２）特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。（３）生活看護実習室を活用して、知的障がい生徒自立支援コース設置校として取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。　　※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」（平成30年度82.9％）を毎年２％引き上げて、2021年度には87％以上にする。５　魅力ある総合学科づくりに全教職員で取り組み、「進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。（１）高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。（２）中高連携をさらに進めるなど、広報活動を活性化させる。（３）全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組んでいく。　　※2020年度入試以降の志願倍率1.1倍以上を維持する。（平成30年度　1.13倍） |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| 確かな学力育成のための教員の授業力の向上 | （１）授業力向上委員会を中心として、「めざす授業の全体化」を図り、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。（２）学校経営推進費を活用して設置したＨＲ教室の電子黒板機能付プロジェクタの活用（３）研究授業や教員同士の授業観察の活性化 | （１）ア　授業力向上委員会を定期的に開催し、アクティブラーニングやユニバーサルデザイン等に関しての情報を共有し、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。イ　府教育センターのパッケージ研修を活用して、学校全体で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。（２）モデル授業者や各教科代表者によるＩＣＴ機器を活用した研究授業と研究協議を実践する。（３）ア　授業アンケートの振り返りシートを教員全員が提出する。イ　全体の研究授業を年間３回行うとともに、授業観察シートを教員全員が提出する。ウ　近隣中学校との授業交流をさらに活発化する。 | （１）ア　「いろいろ工夫されている授業が多い」３％増加（H30　76.0％）イ「楽しくて、わかりやすい授業が多い」３％増加（H30　67.2％）（２）ＩＣＴ機器活用に関する教職員研修実施２回以上（H30　２回）（３）ア　授業アンケートの学校全体の平均値上昇（H30　3.21）イ　全体の研究授業５回以上（H30 ５回）ウ　近隣中学校との授業交流の参加人数の増加（H30 33人） |  |
| キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実 | （１）アクティブラーニングルームやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践（２）進路実現に向けた本物・最先端に触れる活動の充実（３）進学講習の充実による希望する進路の実現 | （１）ア　キャリアサポートルームを進路指導やＨＲで有効に活用する。イ　３年間トータルの系統的なキャリア教育の策定（２）ア　キャリア教育にかかる「ＬＣ」「ＬＨＲ」やエリア活動、「卒業生に聞く」「ＴＲＹＯＵＴ」等の進路実現に向けた活動を充実させる。イ　新たな大学連携先を開拓するとともに、　アカデミックインターンシップを実施する。ウ　英検等、各種検定の受験、資格取得の促進（３）ア　進学講習を効率的に開催し、進学講習に参加する生徒を増加させる。イ　一つ上をめざす進路志望を勧奨しつつ、生徒の希望進路の実現を支援する。 | （１）アイ　進路希望実現率の２％増加（H30 88.5％）（２）ア「進路実現に関する指導は適切に行われている」２％増加（H30 88.2％）イ　大学との連携活動回数５％増加（H30　81回）ウ　各種検定、資格著得者数の増加（H30　71名）（３）ア　「学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している」２％増加（H30　80.2％）イ　難関大学（関関同立・産近甲龍）の合格者20％増加（H30 　５名） |  |
| 社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長 | （１）基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底（２）リーダーの養成及びＨＲや委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化（３）部活動の活性化（４）地域連携のさらなる充実 | （１）ア　遅刻指導や頭髪・服装指導などを粘り強く行い、基本的な生活習慣を定着させる。イ　学校指定のセーターをH31より導入する。ウ　学年連携会議等で、生徒指導や行事などの学年間の調整を図る。（２）リーダー養成研修を実施し、生徒会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事を活性化させる。（３）養成したリーダーによる部活動への勧誘や体験入部の工夫等によって部活動の加入率をあげ、部活動の活性化を図る。（４）防災訓練や土曜講座など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。 | （１）ア　年間遅刻者数を５％以上減少させる。（H30 1631）イ　「学校生活についての先生の指導は納得できる」３％増加（H30　66.3％）（２）「学校行事やＨＲ活動には皆が楽しく参加している」２％増加（H30　80.3％）。（３）部活動加入率３％増加（H30 55.2％）（４）地域活動参加回数５％増加（H30　26回） |  |
| 社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実 | （１）高校３年間を通した人権教育の推進（２）高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実（３）ユニバーサルデザインの授業実践の活性化 | （１）ア　ＳＮＳなどにも対応した３年間トータルの人権教育を行うイ　アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。（２）生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取り組みを充実させる。（３）生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「共に学び共に育つ」教育活動をさらに推進する。 | （１）ア　「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」２％増加（H30 82.9％）イ　「学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」２％増加（H30　80.2％）（２）訪問・来校相談、研修・講演回数の５％増加（H30 訪問・来校相談17件、研修・講演４回）（３）「この学校の生徒たちの関係はとてもよい」２％増加（H30　81.2％） |  |
| 魅力ある総合学科づくり | （１）特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。（２）「魅力ある総合学科」を作って、情報発信するなど、広報活動に力を入れる。（３）全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図る。 | （１）ア　再編ＰＴや教職員研修で、教育課程について議論をし、５つの系列を魅力あるものにする。イ　新学習指導要領の実施に向けて、議論を行う。（２）再編ＰＴの広報担当チームを中心にして学校紹介ＤＶＤを再編集するとともに、中学校教員や保護者向け学校説明会を実施するなど、広報活動に力を入れる。（３）業務の平準化を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により、教職員の時間外勤務の削減をめざす。 | （１）（２）・学校説明会の新規実施・2020年度入試以降の志願倍率1.1倍以上を維持する。（H30　1.13倍）（３）教職員の一人当たり時間外勤務時間数の10％削減（H30　約40時間） |  |